

## 原著論文

# 発達障害児の包括的アウトカム質問票 (Comprehensive Outcome Questionnaire for Developmental disorder, COQ-D) の作成： 健常児を対象とした項目分析および信頼性の検討

塩川 宏郷

【目的】小児の発達障害の治療効果判定、予後研究に使用可能で簡便な質問紙形式の評価尺度を作成し、その信頼性を検討する。【対象および方法】栃木県内の幼稚園年長児クラスに在籍している児の主な養育者90人を対象とした。独自に作成した包括的アウトカム質問票(COQ-D)に回答してもらい、信頼性係数を算出し項目分析を行い、あわせて結果から読み取れる健常児の特性について検討した。【結果】質問票全体の信頼性係数は0.5台と低いが、下位尺度ごとの係数は0.7~0.8であり、一定のまとまりを持つ質問紙と判断できた。健常幼児にも一定の割合で養育者が困惑する行動(challenging behavior)が存在することと支援ニーズが行動の頻度に相関することが示された。【考察】行動面の問題、支援ニーズをそれぞれ評価の軸としたCOQ-Dは簡便に子どもの行動と支援ニーズを評価できる質問紙として使用可能であることが示唆された。

(キーワード：発達障害、行動、治療効果、アウトカム、質問紙)

## I. はじめに

近年、自閉症やアスペルガー障害、注意欠陥多動性障害など、いわゆる軽度発達障害児の診断や治療について関心が高まっている。学校教育の現場では、特別支援教育の名のもとに軽度の発達障害を有する子どもを通常級の中で支援していこうとする動きがはじまり、その支援を必要とする児童の頻度は6%程度にのぼるとされる(文部科学省, 2002)<sup>1)</sup>。これらの発達障害に関しては、早期発見および早期療育が重要とされている。一方で、療育や治療介入にはさまざまな技法があるが、その有効性についてのエビデンスは少ない<sup>2)</sup>。これは、療育や治療の効果(アウトカム)を測定する方法論が確立していないためであり、発達障害の予後調査を行う上でも重大な問題となっている。

今回筆者は、発達障害を持つ子どもの包括的なアウトカム評価を簡便に行う方法を標準化するために新たな質問票を作成し、健常児におけ

る信頼性の検討と、この評価票から見いだされる現在の健常児童の行動面の特徴などについて調査を行ったので考察を加え報告する。

## II. 目的

今回の調査の目的は、健常児(幼稚園児)にみられる養育者が対応に困難を感じる行動面の問題をchallenging behaviorと定義し(「養育者にとってchallengingである」という意味)、その頻度を調査すること、ならびに養育者の持つ子どもへの支援ニーズとの関連を検討することとした。

## III. 対象

調査対象はT県内の幼稚園(3校)年長児クラスに通園中の園児で、発達障害の診断を受けている児を除外した90人の主たる養育者(父親10人、母親79人、祖母1人)とした。

\* 自治医科大学小児科学

## IV. 方法

### A. 質問票

使用した質問票 (Comprehensive Outcome Questionnaire for Developmental disorder, 以下 COQ-D) は今回独自に作成したもので、二つのパートからなる。一つは子どもの行動面の症状に関する質問97項目からなるパート (challenging behavior question パート, 以下 CBQ パート), もう一つは子どもの支援体制に対するニーズに関する質問46項目からなる支援ニーズパートである。CBQ パートは、米国精神医学会による「精神疾患の診断と統計のためのマニュアル第4版 (DSM-IV)」<sup>9)</sup>の注意欠陥多動性障害, 行為障害, 不安障害, 気分障害, 広汎性発達障害の診断基準に記載されている行動面の症状を取り上げ, 分離不安や精神症状も加え97項目を設定した。主たる養育者が「子どもにみられる行動で対応に困難を感じている行動」項目について, あり, なしを回答してもらい, ありの場合, ときどき (週に3~5回), しばしば (ほぼ毎日), ほとんど常に (1日に複数回以上) の3段階で回答できる教示とした (付録1)。

支援体制に対するニーズ質問項目 (支援ニーズパート) は, 現在の子どもの日常生活動作 (10項目), 社会生活適応 (20項目), 認知・学習 (7項目), および医療・教育・福祉および家族の支援, 養育者自身が感じる満足度などの項目 (総合的支援ニーズ感, 9項目) を設定し, 4段階評価で回答する形式とした。

質問票は, 幼稚園を訪問し保護者会の集まりの場で調査の説明を行い consent が得られた人に配布し, 無記名で回答していただき1週間後に回収した。現在発達障害の診断を受けている例は除外した。

### B. 統計処理

CBQ パートは, 「あり」と回答された項目の総数 (全97項目), および「不注意・多動 (18項目)」「行為 (23項目)」「強迫・不安 (11項目)」「病的体験 (5項目)」「抑うつ (12項目)」「コミュニケーション・社会性 (14項目)」「分離不安その他 (14項目)」に項目を分け下位分類としそれぞれの項目数を計数した。これらより一人あたりの challenging behavior の数および各々の下位分類行動の数を算出した。さらに, なし (0

点), ときどき (1点), しばしば (2点), 常に (3点) と得点化し, 下位項目群ごとの得点および合計得点を算出することで数量化した。

支援ニーズパートについても同様に, 選択肢それぞれを0~3点と得点化し合計したものを下位項目分類ごとの合計およびパート全体の合計得点を算出した。得点が高いほどニーズが高いととらえることにした。

統計処理は, SPSS 日本語版 ver.13を用いた。質問票としての信頼性 (内的整合性) については Cronbach の  $\alpha$  を算出した。また質問票全体の記述統計を求めることで項目分析を行い質問票の特徴を考察した。さらに, これらの統計データと項目ごとの出現頻度や得点から, 就学前の子どもにみられる行動面の特徴について検討した。

## V. 結果

### A. 信頼性係数と記述統計

表1にCBQパートの, 下位項目ごととパート全体の  $\alpha$  係数を示した。下位項目ごとの係数は「病的体験」が最も低く, 分離不安, 強迫・不安の下位項目についても0.6程度と低かった。不注意・多動, 行為, 抑うつ, コミュニケーション・社会性については0.7~0.8であり, 質問項目としてのまとまりをもつことが示された。CBQ 全体では0.577であり, CBQ の合計得点を

表1 challenging behavior 質問パートの信頼性係数

下位項目分類	信頼性係数 (Cronbach's $\alpha$ )
不注意・多動 (18項目)	0.772
行為 (23項目)	0.839
強迫・不安 (11項目)	0.630
病的体験 (5項目)	0.158
抑うつ (12項目)	0.871
コミュニケーション・社会性 (14項目)	0.860
分離不安 (14項目)	0.586
CBQ * 全体	0.577

\* : challenging behavior questions パート

一つのまとまりのある得点と考えることは信頼性が低いと考えられた。

表2は支援ニーズパートの信頼性係数であるが、下位項目については十分なまとまりをもつことが認められた。しかしながら、パート全体では0.564であり、パート全体としてのまとまりを欠いている可能性が示唆された。

B. 記述統計

表3, 4には、それぞれのパートの下位項目別およびパート別全体について、取りうる最高

表2 支援ニーズパートの信頼性係数

下位項目分類	信頼性係数 (Cronbach's $\alpha$ )
日常生活動作 (10項目)	0.775
社会生活適応 (20項目)	0.869
認知・学習 (7項目)	0.866
総合支援ニーズ感 (9項目)	0.783
支援ニーズパート全体	0.564

得点と、平均得点、標準偏差、得点範囲、および最頻値 (モード) を示した。すべての項目において正規分布をとらなかった。

C. 就学前の子どもの行動面の特徴

表5には、CBQパートで項目得点の平均が1.5点以上のものを頻度順にあげた。多動・不注意および行為に分類させる項目が多いことが伺われた。

図1は、日常生活動作の支援ニーズを示したものであるが、全体としてもほぼ半数の子どもが日常生活動作に何らかの支援を必要としている傾向がわかる。社会生活適応に関しては (図2), 就学前の児童であっても対人関係上の問題について支援がなくてもある程度自分で処理できている傾向が伺われる。認知・学習についてはことばの理解や表出言語については8割近くの子どもの自立できていることが示されている (図3)。

図4は養育者自身の感じている全般的な支援ニーズを示したものであるが、おおむね満足と

表3 CBQの下位項目別記述統計

下位項目 (取りうる最大得点)	平均得点	標準偏差	得点範囲	最頻値
不注意・多動 (54)	9.6	6.6	0~29	9
行為 (69)	5.4	4.4	0~24	1
強迫・不安 (33)	0.8	1.5	0~9	0
病的体験 (15)	0.1	0.4	0~2	0
抑うつ (36)	0.3	1.2	0~9	0
コミュニケーション・社会性 (42)	1.1	2.5	0~15	0
分離不安 (42)	1.9	2.5	0~11	0
CBQ 合計 (291)	23.8	12.9	0~72	24

表4 支援ニーズパートの下位項目別記述統計

下位項目 (取りうる最大得点)	平均得点	標準偏差	得点範囲	最頻値
日常生活動作 (30)	5.0	3.8	0~18	0
社会生活適応 (60)	4.4	4.8	0~18	0
認知・学習 (21)	5.4	5.0	0~16	0
総合支援ニーズ感 (27)	6.1	3.6	0~15	9
支援ニーズパート合計 (138)	20.9	11.4	0~49	11

表5 CBQ 項目別平均得点が高い項目の出現頻度

下位項目	発生頻度(%)
1. 細かいことに注意を払えなかったりケアレスミスをする。	72.2
8. ほかにことですぐに気が散る。	70.0
23. 自分がやったことや自分のミスを人のせいにする。	70.0
21. やるように言われたことを無視したり断ったりする。	68.9
15. おしゃべりしすぎる。	60.6
19. かんしゃくをおこす。	54.4
16. 質問が終わっていないのに答えてしまう。	50.0
24. 怒りっぽくほかのことで簡単にいらいらする。	48.9
20. 大人と口論する。	47.8
3. 直接話しかけられているのに聴いているように見えない。	46.7
2. 遊びや宿題などに注意を払うのが困難である。	44.4
26. ほかにの人に怒りをぶつけたり仕返ししたりする。	44.4
4. 指示に従うのがむずかしく最後までやりとげられない。	44.4
6. 学習や宿題など努力を必要とする作業を避けようとする。	43.3
22. ほかに人を嫌がらせることをわざとする。	40.0
9. 日常の活動でも忘れやすい。	40.0
13. 静かに遊ぶことができない。	37.8
7. 活動に必要なものをなくす。	37.8
93. 近くに親がいないと眠れない。	36.6
10. いすに座っていても手や足をもじもじごそごそしている。	16.7

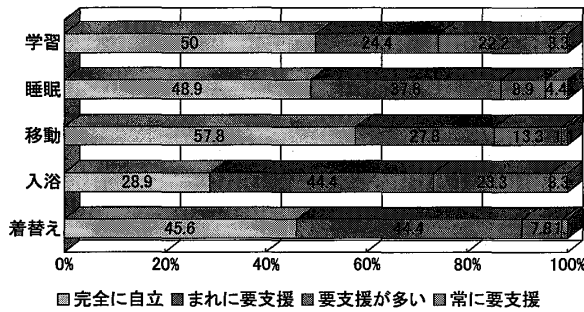


図1 日常生活動作の支援ニーズ (n=90)

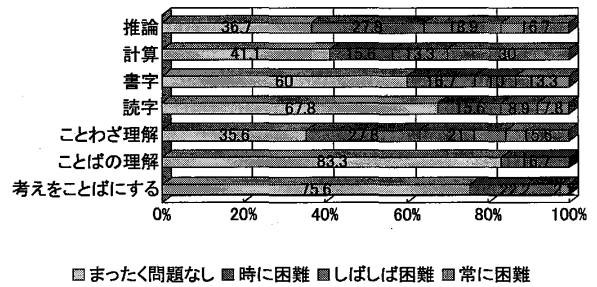


図3 認知学習支援ニーズ (n=90)

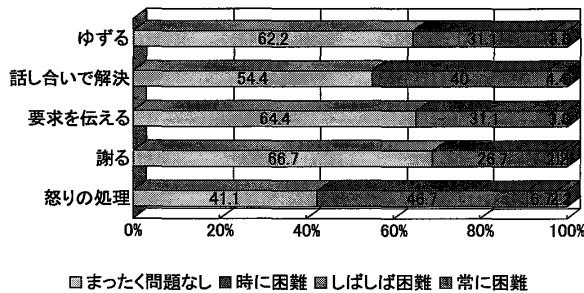


図2 社会性支援ニーズ (n=90)

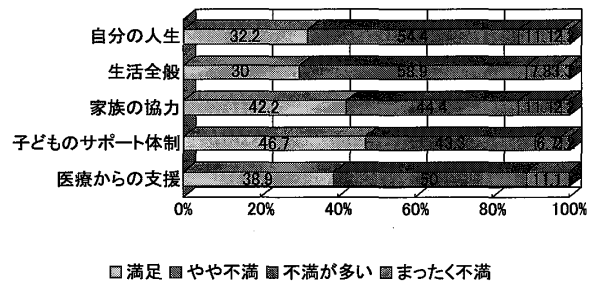


図4 全般的支援ニーズ (n=90)

しながらも支援は必要であると感じている養育者が多い傾向がみられた。

CBQ パートの合計得点と支援ニーズパートの合計得点の間には有意な正の相関が認められた (Pearson  $r = .352, p = 0.001$ )。

## VI. 考 察

### A. 質問票 COQ-D について

今回の調査は、発達障害をもつ子どもの症状を評価し治療効果などの判定に用いることができる簡便な質問紙の開発が一つの目的であり、健常児を対象にした信頼性を検討することが本報告の趣旨である。結果として、質問紙票全体としての整合性は低いが、各パートのさらに下位分類において一定のまとまりをもつ質問票と考えることができる。このことにより、質問票の合計得点ではなく下位分類ごとに得点化し評価することは可能であり、発達障害児の症状(行動面の)を評価する方法の一つとして利用することができると考えられた。また、行動面の評価だけではなく、認知や社会性、日常生活動作や満足度といった内容も取り入れることで、より包括的な質問票となりうると考えられた。

一方、質問項目として100項目を越えているために、簡便に使用するという点では問題が残る。特に、項目の定性だけでなく定量的評価も組み入れたために、より手続きが煩雑であり回答者の労力をふやしてしまうことが問題点としてあげられる。さらに、文言の微妙な言い回しが繰り返される質問項目そのものの表現にも検討加える余地があると考えられる。また、今回の対象は健常児であり、実際に臨床的に行動面の問題を持つ子どもの評価に使用できるかどうかは、今後対象を拡大して検討する必要がある。今回は5歳児を中心に調査を行ったが、質問票の項目には年齢から鑑みて不適切な設問もあり、回答者をいたずらに困惑させる可能性もある。これらをふまえ、今後は各行動の項目についての妥当性を検討し、不要と思われる項目は削除するなど質問票全体のブラッシュアップを図る必要があると考えられた。

自閉症を中心とした発達障害の予後調査については、これまでいくつかの報告がなされているが<sup>2),4),5)</sup>、標準化された評価方法はなく共通の

手法を用いていないために、メタアナリシスを行いがたい状況がある。今回われわれが検討したのは、QOL まで含めた包括的な予後評価を行うための質問票であり、このような方法論も今後慢性疾患の長期予後を検討する上で必要になると考えられる。

### B. 健常児の行動特徴と支援ニーズについて

質問票 COQ-D の項目分析により、現在の就学前の子どもの行動の特徴と養育者の支援ニーズが垣間見られた。今回選定した行動の項目は、すべて「病的」症状として診断基準に上げられている行動である。すなわち、質的・量的に問題となる行動であり、養育者が対応に困惑する行動 challenging behavior であり、今回の調査では健常児にもこれらの challenging behavior が一定の割合で出現していることが示唆された(表5)。特に目立つのは「不注意・多動」および「行為」の下位項目に分類される行動である。ケアレスミスや気が散りやすい、人のせいにするなどの行動は70%の子どものみに出現しており、視点を変えれば現在就学前の子どもの持つ養育者たちがもっとも懸念を抱いている行動がこれらのものであると考えることができる。これら challenging behavior が子どもの成長にとまどいどのように変化していくのかという点や、将来的に注意欠陥多動性障害などの臨床的な症候群に発展して行くものなのか、あるいはそれを抑制していくためにどのような養育環境がのぞましいのか、など検討すべき課題が多い。また、養育者の支援ニーズはこれらの行動の多さと正に相関しており、行動面の問題に対して養育者を適切に支援していく方法論について、乳幼児期を通じた検討が必要になる。子どもの行動の発達に伴う変化をみる上でも、本質問票 COQ-D は応用可能なものであると考える。今後は、質問票の妥当性の検討、特に他の標準化された行動評価法との関連をみることや、同一対象の経時的な変化をみることで、発達障害や他の臨床例への適応などについて検討していく予定である。

## VII. まとめ

1. 子どもの challenging behavior と養育者の支援ニーズを包括的に評価する質問票 com-

prehensive outcome questionnaire for developmental disorders, COQ-D を開発し、健常児を対象とした信頼性の検討を行った。

2. 質問紙全体の整合性は低く全体としてのまとまりを欠いた質問票であるが、項目の下位分類ごとの整合性は保たれていることが示唆された。
3. 健常児においても、養育者にとっての challenging behavior が出現しており、さらに養育者の感じる支援ニーズとこれらの行動面の問題が相関していた。
4. COQ-D について、今後臨床例を対象とした妥当性の検討、および経時的变化についても検討する必要があると考えられた。

#### VIII. 参考文献

- 1) 文部科学省(2002)：今後の特別支援教育の在り方について。文部科学省ホームページ [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/public/2002/021004g.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/public/2002/021004g.htm)
- 2) Howlin P, Goode S, Hutton J, et al. : Adult outcome for children with autism. J child Psychol Psychiatry42(2) :

212-226,2004

- 3) 高橋三郎, 大野裕, 染矢俊幸 : DSM-IV 精神疾患の分類と診断の手引, 医学書院, 1995, pp43-66
- 4) Cohen IL, Schmidt-Lackner S, Romanczyk R, et al. : The PDD Behavior Inventory: a rating scale assessing response to intervention in children with pervasive developmental disorder. J Autism Dev Disord33(1) : 31-45,2003
- 5) Tsatsanis KD : Outcome research in Asperger syndrome and autism. Child Adolesc Psychiatr Clin N Am12(1) : 47-63,2003

#### 謝 辞

本研究を行うにあたり多大なご協力をいただいた宇都宮市清愛幼稚園の保坂里絵先生, 野木町法得幼稚園, 足利市東光寺幼稚園の園長先生ならびに回答いただいた保護者の方々にお礼申し上げます。なお, 本研究は文部科学省科学研究費基盤研究(C) 課題番号16591158によって行われた。

発達障害包括的アウトカム評価質問票 (Comprehensive Outcome Questionnaire for developmental disorder, COQ-D)

Part1 : Challenging Behavior Questionnaire (CBQ)

A. 以下に、子どもの行動や症状が列記してあります。それぞれの行動について、ご家庭で対応に困難を感じてしまうときが、

- ① ない
- ② ときどきある (1週間に3~5回)。
- ③ しばしばある (ほぼ毎日)。
- ④ ほとんど常にある (1日に複数回以上)。

の4つのうちいずれかを選び、数字に○をつけてください。

- |                                    |   |   |   |   |
|------------------------------------|---|---|---|---|
| 1. 細かいことに注意を払えなかったりケアレスミスをする。      | ① | ② | ③ | ④ |
| 2. 遊びや宿題などに注意を払うのが困難である。           | ① | ② | ③ | ④ |
| 3. 直接話しかけられているのに聴いているように見えない。      | ① | ② | ③ | ④ |
| 4. 指示に従うことがむずかしく最後までやりとげられない。      | ① | ② | ③ | ④ |
| 5. 宿題や活動をまとめることができない。              | ① | ② | ③ | ④ |
| 6. 学習や宿題など努力を必要とする作業を避けようとする。      | ① | ② | ③ | ④ |
| 7. 活動に必要なものをなくす。                   | ① | ② | ③ | ④ |
| 8. ほかのことですぐに気が散る。                  | ① | ② | ③ | ④ |
| 9. 日常の活動でも忘れやすい。                   | ① | ② | ③ | ④ |
| 10. いすに座っていても手や足をもじもじしたりごそごそしたりする。 | ① | ② | ③ | ④ |
| 11. 座っていなければならない状況で座り続けることができない。   | ① | ② | ③ | ④ |
| 12. してはいけない状況で走り回ったりよじ登ったりする。      | ① | ② | ③ | ④ |
| 13. 静かに遊ぶことができない。                  | ① | ② | ③ | ④ |
| 14. いつもじっとしていない、またはモーターで動いているようだ。  | ① | ② | ③ | ④ |
| 15. おしゃべりしすぎる。                     | ① | ② | ③ | ④ |
| 16. 質問が終わっていないのに答えてしまう。            | ① | ② | ③ | ④ |
| 17. グループ活動で順番を待ってられない。             | ① | ② | ③ | ④ |
| 18. 子どもどうしの活動に割り込んだりさえぎったりする。      | ① | ② | ③ | ④ |
| (以上「不注意・多動性」項目群)                   |   |   |   |   |
| 19. かんしゃくをおこす。                     | ① | ② | ③ | ④ |
| 20. 大人と口論する。                       | ① | ② | ③ | ④ |
| 21. やるようにならされたことを無視したり断ったりする。      | ① | ② | ③ | ④ |
| 22. ほかの人を嫌がらせることをわざとする。            | ① | ② | ③ | ④ |
| 23. 自分がやったことや自分のミスを人のせいにする。        | ① | ② | ③ | ④ |
| 24. 怒りっぽくほかのことで簡単にいらいらする。          | ① | ② | ③ | ④ |
| 25. いつも怒っていらいらしている。                | ① | ② | ③ | ④ |
| 26. ほかに人に怒りをぶつけたり仕返ししたりする。         | ① | ② | ③ | ④ |
| 27. 学校をサボる。                        | ① | ② | ③ | ④ |
| 28. してはいけないときに夜まで外出している。           | ① | ② | ③ | ④ |
| 29. ものをもらったり責任のがれをするうそをつく。         | ① | ② | ③ | ④ |
| 30. 他人をいじめたりおどかしたりこわがらせる。          | ① | ② | ③ | ④ |

31. けんかをはじめめる。 ① ② ③ ④
32. 家出をして外泊する。 ① ② ③ ④
33. 人がみてないところでものを盗んだ。 ① ② ③ ④
34. ほかの人のものをわざと壊したことがある。 ① ② ③ ④
35. わざと火をつけたことがある。 ① ② ③ ④
36. ほかの人を脅かしてものを盗ったことがある。 ① ② ③ ④
37. ほかの人の家や車を壊して侵入したことがある。 ① ② ③ ④
38. けんかのときに武器（バットやバックル、ビンなど）を使ったことがある。 ① ② ③ ④
39. 動物に対して危害を加えたことがある。 ① ② ③ ④
40. 人に対して身体的な危害を加えたことがある。 ① ② ③ ④
41. 性的なことに夢中だったり性的関係を持ったことがある。 ① ② ③ ④
- （以上、「行為」項目群）
42. 学習成績や運動や社会的な活動に対して心配しすぎる。 ① ② ③ ④
43. 心配な気持ちをコントロールできない。 ① ② ③ ④
44. 落ち着きなく動き回ったり短気だったりする。 ① ② ③ ④
45. 一日のうちほとんどいらいらしている。 ① ② ③ ④
46. 極端に緊張していてリラックスすることができない。 ① ② ③ ④
47. なかなか寝つけず睡眠が浅くすぐに目が覚めてしまう。 ① ② ③ ④
48. 明らかな原因がないのに体のどこかが具合が悪いという（頭痛、胃痛など）。 ① ② ③ ④
49. 特定のものや状況（動物や高い場所、嵐、虫など）を極端に怖がる。 ① ② ③ ④
50. 頭の中にある悩みをとめることができない（不潔なことに対する不安や何でも完全にしなければなら  
ないということなど）。 ① ② ③ ④
51. 普通ではしないことを無理やりしている気がする（手洗いや鍵の確認、同じことを何度も繰り返すな  
ど）。 ① ② ③ ④
52. 非常に怖い体験をしたことがありそのことに悩み続けている。 ① ② ③ ④
- （以上、「強迫・不安」項目群）
53. 特に理由がないのに普通はない行動をする（まばたきしたり鼻をぴくぴくさせたり、唇をなめたり、  
頭を振ったり）。 ① ② ③ ④
54. 特に理由がないのに声をだす（咳をしたりせきばらいしたり鼻をすすったりのどをならしたり）。 ① ② ③ ④
- （以上、「その他」項目群）
55. 現実的でない奇妙な考えや信念を持っている（食べ物に毒が入ってる、誰かが捕まえにくる、など）。 ① ② ③ ④
56. 幻聴がある（何かをするように言う声が聞こえる）。 ① ② ③ ④
57. 極端に奇妙で非論理的な思考や観念を持っている。 ① ② ③ ④
58. そうすることが適当でないときに笑ったり泣いたりする、または他の人がほとんど感動するような場  
面で何の感情も示さない。 ① ② ③ ④
59. 極端に奇妙な行動をする（空想の友だちと話したり奇妙な声で独り言を言ったり）。 ① ② ③ ④
60. ほとんどいつも落ち込んでいる。 ① ② ③ ④
61. 楽しいことにほとんど関心を示さない、または楽しいことを楽しめない。 ① ② ③ ④
62. 死ぬことや自殺することを繰り返し考える。 ① ② ③ ④
63. 自分には価値がないといい罪悪感を感じている。 ① ② ③ ④
64. エネルギーレベルが低く特に理由がないのに疲れている。 ① ② ③ ④
65. 自信がなく自己評価が低い。 ① ② ③ ④
66. ものごとは何もうまくいかないと感じている。 ① ② ③ ④



以下の質問は、「あり」「なし」のどちらかに○をつけてください。

- |  |    |       |
|--|----|-------|
| 67. 食欲や体重が極端に変化した。   | あり | なし    |
| 68. 睡眠が極端に変化した (不眠または眠りすぎる)。                                   | あり | なし    |
| 69. 活動性が極端に変化した (まったく活動しないまたは動きすぎ)。                            | あり | なし    |
| 70. 集中力が極端に変化した。   | あり | なし    |
| 71. 学校の成績が極端に変化した。   | あり | なし    |
| (以上「抑うつ」項目群)   |    |       |
| 72. ほかにの人に奇妙なやりかたでかかわる (視線をあわせない, 奇妙な表情やみぶりをするなど)。             | ①  | ② ③ ④ |
| 73. 他の子どもとうまくかかわったり遊んだりしない。                                    | ①  | ② ③ ④ |
| 74. 友だちを作ることに興味がない。  | ①  | ② ③ ④ |
| 75. 他のひとの感情に無関心である。  | ①  | ② ③ ④ |
| 76. 言語に明らかな問題がある。  | ①  | ② ③ ④ |
| 77. 社会的に適切な会話をもつことが困難である。                                      | ①  | ② ③ ④ |
| 78. 奇妙な話し方をする (他人が言ったことをそのまま繰り返す, あなたと私を混同する, 奇妙なことばやフレーズを使う)。 | ①  | ② ③ ④ |
| 79. まねをしたりごっこ遊びができない。  | ①  | ② ③ ④ |
| 80. ひとつのことがらにこだわる。   | ①  | ② ③ ④ |
| 81. 日常的なことがちょっとでも変化すると非常に混乱する。                                 | ①  | ② ③ ④ |
| 82. 奇妙な動作をくりかえす (手をひらひらさせるなど)。                                 | ①  | ② ③ ④ |
| 83. もの一部分に奇妙な関心を示す。  | ①  | ② ③ ④ |
| 84. 見知らぬ人に接することを極端にさける (異常に恥ずかしがり)。                            | ①  | ② ③ ④ |
| 85. 知っている人に対しても極端に恥ずかしがる。                                      | ①  | ② ③ ④ |
| (以上, 「コミュニケーション・社会性」項目群)                                       |    |       |
| 86. 家族や家族の中の大人と一緒に外交的になる。                                      | ①  | ② ③ ④ |
| 87. 不快な状況におかれると泣き出したりかたまってしまったりひきこもったりする。                      | ①  | ② ③ ④ |
| 88. 親や家から引き離されると非常に混乱する。                                       | ①  | ② ③ ④ |
| 89. 親がけがをしたり家から出て行って帰ってこないのではないかと心配する。                         | ①  | ② ③ ④ |
| 90. 災害 (誘拐されたり未知に迷ったり) で親から引き離されるのではないかと心配する。                  | ①  | ② ③ ④ |
| 91. 親と一緒にいたいから学校に行くのを避けようとする。                                  | ①  | ② ③ ④ |
| 92. 一人や, 子守のひとと家にとり残されるのを心配する。                                 | ①  | ② ③ ④ |
| 93. 近くに親がいないと眠れない。   | ①  | ② ③ ④ |
| 94. 親から引き離されるという悪夢を見る。   | ①  | ② ③ ④ |
| 95. 家や親から離れなければならないと体の具合が悪いという。                                | ①  | ② ③ ④ |
| (以上, 「分離不安」項目群)  |    |       |
| 96. おねしょがある。   | ①  | ② ③ ④ |
| 97. 日中におしっこや便をもらしてしまう。   | ①  | ② ③ ④ |
| (以上, 「その他」項目群)   |    |       |

## Part 2 : 支援ニーズ調査票

## B. ADL 支援ニーズ

以下に、日常生活動作に関することが列記されています。それぞれについて

- ① すべて自分でできる（完全に自立）。
- ② まれに支援が必要（支援しなくてもできることが多い）。
- ③ ときどき支援が必要（支援が必要なことが多い）。
- ④ 常に支援が必要（まったく自分でできない）。

の4つのうちひとつを選んで○をつけてください。

- |              |   |   |   |   |
|--------------|---|---|---|---|
| 1. 着替え, みじたく | ① | ② | ③ | ④ |
| 2. 入浴        | ① | ② | ③ | ④ |
| 3. 移動        | ① | ② | ③ | ④ |
| 4. 食事        | ① | ② | ③ | ④ |
| 5. 排泄        | ① | ② | ③ | ④ |
| 6. 睡眠        | ① | ② | ③ | ④ |
| 7. 一人遊び      | ① | ② | ③ | ④ |
| 8. 集団遊び      | ① | ② | ③ | ④ |
| 9. 学習        | ① | ② | ③ | ④ |
| 10. 余暇活動     | ① | ② | ③ | ④ |

## C. 社会適応支援ニーズ

以下は、子どもの社会的な活動が列記してあります。それぞれについて

- ① まったく問題ない。
- ② ほとんど問題ないが時に困難な状況がある。
- ③ しばしば困難な状況がある。
- ④ 常に困難な状況である。

のうちひとつを選んで○をつけてください。

- |                                 |   |   |   |   |
|---------------------------------|---|---|---|---|
| 1. 通学（通園）している。                  | ① | ② | ③ | ④ |
| 2. 授業に参加している。                   | ① | ② | ③ | ④ |
| 3. クラスメイトとうまくつきあっている。           | ① | ② | ③ | ④ |
| 4. 担任とうまくつきあっている。               | ① | ② | ③ | ④ |
| 5. 他の子と同じ行動ができる。                | ① | ② | ③ | ④ |
| 6. 学校（園）以外の場所で他の子とうまくつきあっている。   | ① | ② | ③ | ④ |
| 7. 学校（園）以外の場所で、他の子と同じ活動に参加している。 | ① | ② | ③ | ④ |
| 8. ルールを守って遊べる。                  | ① | ② | ③ | ④ |
| 9. 家庭で親とうまくつきあっている。             | ① | ② | ③ | ④ |
| 10. 家庭できょうだいとうまくつきあっている。        | ① | ② | ③ | ④ |
| 11. 争いごとは話し合いで解決できる。            | ① | ② | ③ | ④ |
| 12. 自分の要求をきちんと伝えられる。            | ① | ② | ③ | ④ |
| 13. 相手の話をよく聞くことができる。            | ① | ② | ③ | ④ |
| 14. ゆずることができる。                  | ① | ② | ③ | ④ |
| 15. 謝ることができる。                   | ① | ② | ③ | ④ |
| 16. 相手の間違いを許すことができる。            | ① | ② | ③ | ④ |
| 17. 相手の気持ちを思いやることができる。          | ① | ② | ③ | ④ |

18. 身振りや手振りで意思を伝えられる。 ① ② ③ ④  
 19. 相手の身振りや手振りが理解できる。 ① ② ③ ④  
 20. 怒りの感情を上手に処理できる。 ① ② ③ ④

## D. 認知支援ニーズ

以下は、子どもの認知機能に関することです。それぞれについて、

- ① まったく問題がない  
 ② ほとんど問題がないが時に困難である。  
 ③ しばしば困難である。  
 ④ 常に困難である。

の4つからひとつを選んで○をつけてください。

1. 自分の考えをことばにすることができる。 ① ② ③ ④  
 2. ことばが理解できる。 ① ② ③ ④  
 3. ことわざや皮肉、比喩が理解できる。 ① ② ③ ④  
 4. 文字を読める。 ① ② ③ ④  
 5. 文字を書ける。 ① ② ③ ④  
 6. 計算する。 ① ② ③ ④  
 7. 筋道をたてて考える。 ① ② ③ ④

## E. 一般支援ニーズ (または満足度)

以下の質問にはあなた (これを記入している人) ご自身の気持ちを、

- ① 満足している。  
 ② 満足だが改善が必要な部分がある。  
 ③ 不満な部分が多い。  
 ④ まったく不満である。

の4つからひとつを選び○をつけてください。

1. あなたのお子さんについてどう感じていますか? ① ② ③ ④  
 2. あなたのお子さんの受けている医療についてどう感じていますか? ① ② ③ ④  
 3. あなたのお子さんの受けている教育についてどう感じていますか? ① ② ③ ④  
 4. あなたのお子さんの受けているサポート体制についてどう感じていますか? ① ② ③ ④  
 5. あなた自身の受けているサポート体制についてどう感じていますか? ① ② ③ ④  
 6. 家族の協力についてどう感じていますか? ① ② ③ ④  
 7. あなた自身の生活全般についてどう感じていますか? ① ② ③ ④  
 8. あなた自身の人生についてどう感じていますか? ① ② ③ ④  
 9. お子さんは自分の人生についてどう感じていると思いますか? ① ② ③ ④

F. お子さんの人生を決める大切なことは何だと思えますか? 自由にお書きください。

# The development of a questionnaire measuring behavioral-psychiatric outcome for developmentally handicapped children: The Comprehensive Outcome Questionnaire for Developmental disorders (COQ-D)

Hirosato SHIOKAWA, M.D.

## Abstract

We developed a questionnaire measuring behavioral-psychiatric outcome for developmentally handicapped children named "The Comprehensive Outcome Questionnaire for Developmental disorders (COQ-D)". The questionnaire has 97 items measuring "challenging behaviors" and 46 items measuring ADL, cognitive function, social function and QOL of the children. We investigated the internal consistency and reliability of the questionnaire using normative data from normally developing preschool children. The Cronbach's alphas were estimated 0.5~0.9. We concluded that COQ-D has relatively less internal consistency, but is a reliable questionnaire for measuring challenging behaviors among normal children. Further validation study is needed.

(Key words: development, outcome, questionnaire)